

## 平成18年度 学校経営計画

学校番号	42	学校名	静岡東高等学校	校長名	須藤 壽忠
------	----	-----	---------	-----	-------

### 1 めざす学校像

本校では、創立以来、「自分に負けるな」を生徒の実行目標とし、学業と人間形成の両面において、生徒一人ひとりを大切に育てることを教育方針にしている。

この教育方針を達成するために以下の重点目標を持った学校をめざす。

- (1) 人間として「自覚と責任」のある生き方ができる自律の心を育てる。
- (2) 進路希望達成のため学習活動を充実し、意欲的な学習態度を身に付けさせる。
- (3) 生徒一人ひとりの活力・特性を最大限に伸ばすことをめざす。

### 2 今年度の取組みと方策

#### (1) 重点目標

- ・生徒の交通マナー遵守の意識向上を図り、交通事故を減らす。
- ・時差登校時間を厳守し、年間延べ遅刻者数を減少させる。
- ・日常生活のリズムを安定させ、欠席者数を減少させる。
- ・国公立4年制大学合格者を卒業生の40%、実進学を3分の1以上にする。
- ・より一層の進学指導体制充実のため、職員を8人以上先進校へ派遣する。
- ・図書館の年間貸し出し数を2,500冊以上にする。
- ・校内の学力向上委員会を継続して、東高としての授業のあり方を研究する。
- ・年3回の面接を通じた総合的個別指導を充実させる。
- ・カウンセリング、教育相談を充実させ、長期欠席者の対応を図る。
- ・確立した情報システムを有効活用すると共に、情報セキュリティを図る。
- ・教育環境をより良くするために、エアコン設置を計画する。

#### (2) 教育活動の目標と方策

##### ア 基本的生活習慣の定着

- ・日常生活の中で礼儀作法（言葉遣い、挨拶、人への対応等）を指導する。
- ・生徒の健全な育成のために服装、頭髪の指導を職員全員で行う。
- ・きめ細かな健康管理を行うとともに、自己管理を行うことのできる能力を育てる。
- ・清掃美化に努め、清潔で学習に適した環境の充実に努める。
- ・年3回、教師、保護者、生徒の三者が交通の要衝に立ち、交通マナーの实地指導をする。また、そこでの反省をもとに生徒指導に反映させる。

## イ 進路指導の充実

- ・学年部、教務課と連携し、日常の学習指導及び学校設定科目、PTA進路講座、長期休業中の補講を体系化して指導の充実を図る。特に、5教科7科目への対応を優先して行う。
  - ・学習時間調査の結果を、日常の学習指導及び週末課題に活かす。
  - ・総合的な学習の時間を中心に、望ましい職業観・勤労観を育み、生徒自らが進路を選択し決定できる能力を育てる。
  - ・高大連携事業の専門教養講座に加えて中高連携の体制を整え、新入生が中学から高校の学習内容へ抵抗なく移行できるよう研究する。
- ・1年生  
新入生初期指導プログラムにより、高校生としての意識を高めさせる。  
社会専門講座では専門的な内容に早期に触れさせ、事前・事後指導（その都度まとめを生徒に流す）を更に充実することで、職業観・学問観を養う。
  - ・2年生  
総合的な学習の時間、修学旅行などの機会を利用し、望ましい職業観・勤労観を育み、自分の進路を決定する力をつけさせる。また、総合的な学習における課題として、夏季休業中のオープンキャンパス参加を課す。  
自分の進路を考えた社会専門講座の受講を促す。
  - ・3年生  
学校設定科目の充実を図る。進路意識の意志疎通を図るため、面談を重視する。 職員で指導している小論文指導を充実・継続する。

## ウ 学習指導の充実

- ・高校生活導入指導プログラムにより、新入生が早く高校の学習習慣を身につけるよう指導する。具体的には、高校生の学習方法等を記した「学習の道しるべ」を使い、新入生に授業の受け方、ノートのとり方や家庭学習の必要性を指導する。
- ・新入生に対して4月1週間をかけて学習態勢を整えるために授業後予習・復習の時間を設けて体験学習をさせ、その重要性を指導する。
- ・学習・生活プログラムを作成し、宿題や基礎学力の定着を目的にした週末課題を課し、家庭学習と授業への取り組みを充実させる。
- ・各教科・科目のシラバスを作成し、生徒に学習の到達目標に向けての具体的な取り組みと授業進度・評価方法等を明示し、計画的な学習が行えるようにする。
- ・家庭学習の大切さを認識させるため、意識的に予習・復習をさせる授業を行い、家庭学習強化週間を設定する。「家庭学習最低3時間」をスローガンとして目標に向かって努力させる。

## エ 特別活動等の充実

- ・生徒一人ひとりの活力・特性の伸長のため、HR活動や生徒会活動の充実を図り、学校行事への参加意欲を高めることにより、学校の一層の活性化を図る。
- ・学業と部活動の両立を図るため、部活動の始まりと終わりをはっきりさせ、けじめを付けさせる。また、本校の生徒実行目標「自分に負けるな」の精神を説き、部活動の意義を理解させる。

- ・学業と部活動の両立を図るため、顧問・担任・教育相談担当が連携を取りながら精神的支援・学習支援を行う。
- ・HR活動や部活動において高校生らしい交際のあり方について指導する。

#### オ 読書指導の充実

- ・1年生の朝読書の内容充実を図るために、学級に学級文庫をつくる。図書室に朝読書用学級図書 of 整備、推薦図書紹介等を行う。
- ・教職員・生徒に向けて、新着図書の紹介、小論文対策用図書の整備紹介等、適切な情報提供を継続的に実施する。
- ・教科指導・進路指導と連携して、長期休業時などに、読書活動を含む課題を出す。

#### カ 広報活動の充実

- ・学校経営の方針や学校の特色がわかる学校案内を作成し配布する。
- ・学校のホームページを必要に応じて迅速に更新し、学校の最新情報の提供に努める。
- ・心の教育講演会、学級懇談会、進路説明会等を通じて保護者に学校の最新情報を提供する。
- ・中学生1日体験入学を魅力あるよう工夫し、充実させる。
- ・中学生、保護者を対象とした入試に関する説明会を実施する。

#### キ 防災指導の充実

- ・東海地震に備え、防災意識の向上と具体的な避難方法等について指導する。12月の地域防災訓練には積極的に生徒を参加させる。